

明治三十七八年海戦史

第一部 戦紀

第四篇 浦鹽斯德港ノ敵艦隊ニ對スル作戰

第一章 第三艦隊ノ朝鮮海峡出動

第一節 第三艦隊ノ編制

明治三十六年十二月、露國トノ交渉漸ク難局ニ赴キ、同月二十八日、常備艦隊ヲ解カレ、明治三十六年度戰時編制ニ準據シ、第一、第二艦隊ヲ編制シ、之ヲ以テ聯合艦隊ヲ組織セラル、ヤ、一朝事アルニ當リ、朝鮮海峡ヲ扼守センカ爲メ、別ニ左ノ十五艦ヲ以テ、第三艦隊ヲ編制セラレタリ、

軍艦鎮遠

軍艦扶桑

軍艦松島

軍艦嚴島

軍艦橋立

軍艦秋津洲

軍艦千代田

軍艦和泉

軍艦濟遠

軍艦大島

軍艦赤城

軍艦摩耶

軍艦鳥海

軍艦宇治

軍艦龍田

而テ右十五隻中、千代田、濟遠、秋津洲、宇治ノ四隻ハ、當時清韓警備ノ任務ニ在ルヲ以テ、引續キ之ヲ兼ネシメラレ、又松島、嚴島、橋立ノ三隻ハ、暫ク海軍少尉候補生ノ練習艦ヲ兼ネシメラル、又同日海軍中將片岡七郎ハ第三艦隊司令長官ニ、海軍少將東郷正路ハ同司令官ニ、各補セラレタルヲ以テ、片岡司令長官ハ、二十九日、鎮遠ヲ其ノ旗艦ニ指定シ、三十日、嚴島ヲ東郷司令官ノ旗艦ニ指定セリ、是同司令官ハ、練習艦ヲ指揮スヘキヲ以テナリ、尋テ三十七年一月四日ニ至

リ、松島以下三隻ハ、練習艦ヲ解カレ、宮古ハ龍田ニ代リ、(龍田ハ第一艦) 六日、第一、第十、第十一、第十六、第二十艇隊編入セラレ、同日海軍少將細谷資氏同艦隊司令官ニ補セラレ、七日ニハ秋津洲、九日ニハ濟遠、何レモ警備ノ任務ヲ解カレ、十日ニハ、愛宕モ亦編入セラレタリ、是ニ於テ同日片岡司令長官ハ、麾下ノ艦艇ヲ、第五、第六、第七ノ三戰隊ニ區分シ、其ノ旗艦ヲ嚴島ニ、東郷司令官ノ旗艦ヲ和泉ニ變更シ、細谷司令官ノ旗艦ヲ扶桑ニ指定セリ、尋テ十四日ニハ筑紫、磐城、十五日ニハ海門、平遠、共ニ第三艦隊ニ編入セラレ、二十四日豊橋ハ、同隊附屬水雷母艦ニ定メラレ、二十七日大島、赤城及ヒ第一艇隊ハ、第一艦隊ニ、第二十艇隊ハ第二艦隊ニ移サレ、三十一日有明丸ハ、給炭船トシテ編入セラレ、宇治ハ歸朝ヲ命セラレ、續イテ警備ノ任務ヲ解カレ、二月六日、須磨モ亦編入セラレタリ、即チ開戰當初(二月八日)ニ於ル其ノ組織左ノ如シ、

第五戰隊		第六戰隊		第七戰隊		通報艦	
巡洋艦 嚴島	戰艦 鎮遠	巡洋艦 和泉	同 須磨	戰艦 扶桑	砲艦 平遠	砲艦 磐城	宮古
巡洋艦 橋立	同 松島	同 秋津洲	同 千代田	同 宇治	海防艦 濟遠	同 摩耶	
					砲艦 筑紫	同 鳥海	
					海防艦 海門	同 愛宕	
第十艇隊	第十一艇隊	第十二艇隊	第十三艇隊	第十四艇隊	第十五艇隊	第十六艇隊	
第四十三號	第七十三號	第四十二號	第七十二號	第四十號	第七十四號	第七十一號	
第四十一號	第七十五號	第四十一號	第七十五號	第三十九號	第六十六號		

第三特務隊	
水雷母艦 豐橋	運送船 有明丸
〆ハ司令官 旗艦	〆ハ司令官 旗艦
嚴島ハ第三艦隊司令官 海軍中將 片岡七郎ノ旗艦	〆ハ司令官 旗艦
和泉ハ第三艦隊司令官 海軍少將 東郷正路ノ旗艦	
扶桑ハ第三艦隊司令官 海軍少將 細谷資氏ノ旗艦	
第四十三號ハ第十艇隊司令官 海軍少佐 大瀧道助ノ乘艇	
第七十三號ハ第十一艇隊司令官 海軍少佐 武部岸郎ノ乘艇	
白鷹ハ第十六艇隊司令官 海軍少佐 若林欽ノ乘艇	

第二節 第三艦隊ノ行動及ヒ戰策

明治三十六年十二月二十八日、第三艦隊ノ編制セララル、ニ當リ、其ノ隊ニ編入セラレタル十五艦中、鎮遠、扶桑、松島、和泉ハ、横須賀ニ碇泊シ、嚴島、赤城ハ吳ニ碇泊シ、橋立、龍田、大島、鳥海ハ佐世保ニ碇泊シ、摩耶ハ舞鶴ニ碇泊シ、警備艦トシテ千代田ハ仁川ニ在リ、濟遠ハ木浦ニ在リ、秋津洲ハ厦門ニ在リ、宇治ハ水標設置水路測量ヲ兼ネテ漢口ニ在リ、而テ海軍大臣海軍中將男爵山本權兵衛ハ、同日片岡第三艦隊司令官ニ向ヒ、鎮遠、扶桑、和泉、龍田ヲ吳方面ニ在ラシメ、大島、赤城、摩耶、鳥海ヲ竹敷ニ在ラシメ、又東郷同司令官ヲシテ、松島、嚴島、橋立ノ三艦ヲ指揮シ、當分ノ内、海軍少尉候補生ノ練習ニ從事セシムヘキ旨ヲ訓令セリ、是ニ於テ片岡司令官ハ、二十九日鎮遠ヲ其ノ旗艦ニ指定スルト同時ニ、祕密ニ出師ノ準備ヲ爲シテ、乘艦スルヲ待タシメ、又前記海軍大臣ヨリノ、吳及ヒ竹敷回航ノ電報ヲ受領スルニ先ダチ、既

三 扶桑、和泉、龍田、大島、摩耶、赤城ノ諸艦ニハ、密ニ出師準備ノ上、至急竹敷ニ回航スヘキヲ命シタルヲ以テ、更ニ扶桑、和泉ノ兩艦ニハ、吳ニ回航ヲ命セリ、而テ三十七年一月三日、横須賀ニ於テ、鎮遠ニ坐乗セシカ、四日ニ至リ、松島以下ノ三隻、練習艦ヲ解カレタルヲ以テ、即日東郷司令官ニ向ヒ、三艦中役務ニ差支ナキモノハ、速ニ吳ニ回航スヘキヲ命シ、親ヲ鎮遠、扶桑、和泉ヲ率非、横須賀ヲ拔錨シテ、七日吳ニ著シ、麾下各艦ニ向ヒ、時局ニ適切ナル操練ヲ施行シ、特ニ射撃術ノ熟達ヲ期スヘシ、ト訓令セリ、尋テ八日、海軍軍令部次長海軍中將伊集院五郎ノ協議ニ基キ、馬山浦巨濟島方面ニ於ル露艦ノ動靜ヲ探リ、且危險物ヲ沈置スル等ノ事ナキヤ否ヤヲ監視セシメンカ爲メ、宮古ヲ同方面ニ急派シ、又同隊中ノ主ナル軍艦ニハ、平常ノ航海ニ要スルモノ、外、便宜英炭ヲ積込マシムルコト、シ、九日ニハ、諸艦艇ニ向ヒ、水線上船體外部ノ全面ヲ濃鼠色ニ塗替フヘキヲ命シ、(但千代田濟遠ハ歸朝若クハ適宜ノ場合ニ於テ實施セシムルコト、セリ)十日戰隊區分ヲ定メ、細谷司令官ニハ、其ノ旗艦扶桑ノ準備完整次第、竹敷ニ回航スヘキコトヲ命シ、水雷艇隊ニハ、何分ノ命令アルマテ、細谷第七戰隊司令官ノ指揮下ニ屬スヘキコト等ヲ命セリ、既ニシテ各艦長ニハ、便宜軍需品ヲ滿載スヘキコト、及ヒ修理其ノ他諸準備結了シ、戰團航海ニ差支ナキニ至ル豫定期日ヲ報告スヘキコト等ヲ令シ、且既ニ著手セシメタル臨戰準備ヲ更ニ進行セシメ、諸戰隊ヲシテ晝夜諸種ノ訓練ヲ勵行セシム、尋テ十五日、馬山浦ニ在リシ宮古ハ、海軍大臣ヨリ、露國海軍士官ノ疑アルモノ數名、捕鯨船ニ乗組ミ、釜山ニ在泊中ニシテ、海底電線切斷ノ懸念アルヲ以テ、釜山本邦郵便局長ヨリ其ノ筋ニ保護方ノ請求アリタル

四

ハ、同地ヘ回航シ注意スヘシ、トノ命令アリタルヲ以テ、(宮古ハ釜山ニ至リシモ怪ムヘキ事ナカク日大島ト交代シ修理ノ爲メ十六日吳ニ向フ)片岡司令長官ハ、竹敷ニアル大島ヲ馬山浦ニ急派シテ、宮古ト交代セシム、同日細谷、東郷兩司令官ヲ會シ、朝鮮海峽ノ警戒陸兵ノ輸送警戒、鎮海灣占領等ニ付、方針及ヒ計畫ノ大要ヲ示シ、十六日ニハ、山本海軍大臣及ヒ海軍軍令部長海軍大將子爵伊東祐亨ヨリ、重要ナル書簡ヲ受テ、(第一篇第(二)章參照)同日片岡司令長官ハ、細谷司令官ニ、第七戰隊ノ各艦ハ、出師準備整ヒ次第、竹敷ヘ回航スヘキコトヲ訓令シ、吳在泊各艦(當時吳ニ在ル第三艦隊ニ屬スル艦船ハ扶遠(以上二隻ハ)嚴島(一)橫須賀(二)至リ)松島秋津洲(以上二隻ハ)ノ九隻ナリ)ヲシテ、艦内敵彈ニ暴露シテ破壊セララル、ノ際、危害ヲ周圍ニ及スヘキモノ、及ヒ上部ニ取附ケタル重量物ニシテ、墜落ノ虞アルモノ、竝ニ當分ノ内使用ノ見込ナキモノヲ陸揚ケセシム、又細谷司令官ハ、第七戰隊ノ旗艦扶桑ニ乗シテ、十七日吳ヲ發シ、十九日竹敷ニ著セリ、尋テ二十日、海軍軍令部參謀海軍中佐財部彪、海軍大臣及ヒ海軍軍令部長ノ内意ヲ齎シテ到リ、日露交渉ノ經過、作戰方針等ヲ示シタルヲ以テ、片岡司令長官ハ、愈時局ノ切迫ヲ知り、諸準備ニ遺漏ナカラント期セリ、二十一日、同司令長官ハ、海軍大臣ヨリ、大島ノ外(大島ハ馬山浦ヨリ)釜山ニ至レルナリ)更ニ一艦ヲ釜山ニ増派スヘシ、トノ命令ニ接シタルヲ以テ、直ニ細谷司令官ニ、赤城ヲ派遣スヘキヲ命セリ、二十三日、侍從武官海軍少將井上良智、聖旨ヲ奉シテ旗艦嚴島ニ至リ、艦隊ノ現況ヲ視察シ、兵氣愈、振フ、又同日大島ハ、陸軍將校ヲ便乗セシメ、露梁津ニ至リ、陸揚ケ地點ヲ視察セシメテ、釜山ニ歸レリ、既ニシテ二十六日ニ至リ、片岡司令長官ハ、山本海軍大臣ヨリ、後來ノ行動ニ關シ、聯合艦隊司令長官ト熟議ヲナシ置クノ必要アリト認ムルニ

ツキ、參謀長ヲ率非テ、佐世保ニ出張スヘシ、トノ電報ヲ受ケタルヲ以テ、即夜第三艦隊參謀長海軍大佐中村靜嘉ヲ伴ヒテ、佐世保ニ急行シ、聯合艦隊司令長官海軍中將東郷平八郎ニ會シ、開戦ニ際シ、聯合艦隊ノ取ルヘキ方針、及ヒ第三艦隊ノ朝鮮海峡扼守ニ關スル方法等、諸般ノ協議ヲ爲シテ、直ニ吳ニ歸リ、一面ニハ、二十七日、海軍大臣ヨリ、一二軍艦ヲ釜山方面ニ派シテ、大島赤城(赤城ハ二十七日第一艦隊ニ移サレタリ)ニ代ラシムヘキノ命ヲ受ケタルヲ以テ、即日在竹敷細谷司令官ニ打電シ、第七艦隊中ヨリ二艦ヲ派遣セシメ、(鳥海愛宕之ニ任シ同三十日)尙第三艦隊ノ碇泊ニ便ナラシメンカ爲メ、吳鎮守府及ヒ竹敷要港部ニ於テ、尾崎灣内ニ繫留浮標ヲ碇置スヘキヲ以テ、之ニ相當ノ助力ヲ與フヘキ旨ヲ訓令シ、二月三日ニハ、同司令官ニ向ヒ、假根據地防備隊到着ニ先ダチ、第七艦隊及ヒ第十六艇隊ヲシテ、巨濟島方面ヲ占領セシムルコトアルヘキヲ以テ、豫メ其ノ計畫ヲ定ムヘキヲ令シ、(本章第四節參照)同日又各艦ニ向ヒ、和炭二晝夜分ヲ除キ、英炭ヲ滿載スヘキヲ令ス、四日ニ至リ、片岡司令長官及ヒ細谷司令官ハ、特派セラレタル海軍軍令部參謀海軍大佐山下源太郎ヨリ、海軍大臣ノ封令ヲ受ケ、之ト相前後シテ、大臣ヨリ、旅順口ノ有力ナル露國軍艦ハ、修理中ナル一隻ヲ除クノ外、總テ三日發航シテ、行先不明ナルヲ以テ、嚴ニ警戒スヘキコト、及ヒ佐世保軍港、竹敷要港ニハ、水雷敷設ノ實施ヲ命シタルコトノ電報ヲ受ケ、片岡司令長官ハ、尙之ヲ細谷司令官及ヒ在仁川千代田艦長海軍大佐村上格ニ傳へ、各艦長ヲシテ、五日午前八時以後ハ、出港命令ヨリ四時間以内ニ出港シ得ル様、諸準備ヲ爲サシメ、又竹敷ニアル細谷司令官ハ、直ニ之ヲ在釜山筑紫愛宕ノ兩艦ニ通知スルト同時ニ、愛宕ヲ馬山浦ニ急航セシメ、尙

之ヲシテ日中ハ鎮海灣口ニ在リテ、鴻島方面ヲ監視シ、夜間ハ馬山浦ニ警泊セシメ、筑紫ヲシテ、日中ハ釜山灣口ニ在リテ、釜山、韓崎間ヲ監視シ、夜間ハ釜山南灣ニ警泊セシメ、露艦ヲ發見セハ、其ノ動靜ヲ知悉報告シ、併セテ陸上トノ連絡ヲ取ルヘキヲ命シ、水雷艇一隊宛ヲシテ、晝夜交、大口灣ト鎮海灣トノ間ヲ巡航警戒セシメ、(竹敷要港部所屬第十七、第十八艇隊ハ對馬西海岸ヲ巡邏警戒ス)海門、磐城、摩耶ヲ尾崎灣ニ配シ、別ニ敵ヲシテ疑ハシメンカ爲メ、磐城ヲシテ加德水道(第一著)竹林浦(第二著)方面ニ、擬水雷ヲ敷設セシメタリ、既ニシテ同日夜ニ入り、細谷司令官ハ、海軍大臣ヨリ、露國艦隊ノ行先尙不明ナルコト、及ヒ彼若シ大口灣ニ近ツキ、敵意ヲ表スルモノト認ムルトキハ、直ニ之ヲ撃破スヘキノ命令ヲ受領シ、又片岡司令長官ハ、速ニ吳方面ニ在ル艦隊ヲ率非、竹敷要港ニ迴航スヘキノ命令ヲ受領セリ、是ヨリ先キ一月下旬、片岡司令長官ハ、第三艦隊ノ全部、敵ト開戦スル場合ニ於ル戦法ヲ策定シ、之ヲ朝鮮海峡ノ哨戒配備、輸送船隊ノ掩護、各部隊任務ノ大綱、戰陣形及ヒ戰闘速力、戰闘中ノ通則、砲煩水雷使用ノ守則、各艦ノ自由運動ヲ爲シ得ル場合、夜間戰闘ノ守則等ニ分チ、之ヲ同艦隊ニ示セリ、即チ左ノ如シ、

- (一) 本戦策ハ我カ第三艦隊カ朝鮮海峡ノ監視若シハ輸送船隊掩護ノ任務ニ處スル艦下艦艇ノ配備及ヒ敵ト出會スルニ當リ各部隊協同作戰ニ要スル大綱ヲ指示スルモノニシテ個々ニ敵ニ對スルノ不利ヲ避ケ必ス我カ兵力ヲ合同シ首尾相呼應シテ敵ヲ撃滅セシコトヲ期スルモノナリ

(二) 朝鮮海峡哨戒配備第一表ノ如シ

(三) 輸送船隊掩護配備第二表ノ如シ

(四) 各部隊任務ノ大綱

- 一、第五第六戰隊ハ主戰隊トシテ專ラ敵當面ノ主力ヲ擊滅スルヲ目的トス
- 二、第六戰隊ハ自己ノ速力ヲ利用シ第五戰隊ト協力シテ敵ヲ又撃スルコトヲ努ムヘシ

三、第七戰隊ハ適當ノ敵ヲ選ヒテ之ヲ攻撃スヘシト雖モ第五第六戰隊ノ行動ヲ妨ケサルヲ要ス

四、宮古ハ戰鬪中第六戰隊ノ列ニ入り之ト行動ヲ共ニスヘシ

五、水雷艇隊ハ各其ノ母隊ニ隨伴シ又ハ機ヲ見テ敵ノ前路ニ進出シ其ノ進行ヲ躊躇セシメ第五第六戰隊ノ行動ヲ容易ナラシムルト同時ニ苟モ好機ヲ逸セサルヲ努ムヘシ

(五) 戰鬪陣形及ヒ戰鬪速力

一、戰鬪陣形ハ特ニ有利ト認ムル場合ノ外常ニ單縱陣又ハ他ノ單列陣形ヲ採用ス

二、戰鬪速力左ノ如シ

第五戰隊 十二海里 第六戰隊 十四海里 第七戰隊 九海里

水雷艇隊 適宜 宮古 同

(六) 戰鬪中ノ通則

一、戰鬪中ハ速力信號ヲ撤シ回轉信號ノミヲ掲クヘシ

二、十六點一齊回頭ヲ行ヒタル際若クハ旗艦其ノ支障ニ依リ一時列外ニ出テタル場合ハ現在ノ先頭艦長ハ自己ノ最有利ナリト思考スル方面ニ全隊ヲ嚮導スヘシ

三、第六戰隊第五戰隊ト分離シテ同一戰場ニ行動スルトキハ甚シク隔離セサルヲ要ス

四、所屬水雷艇隊艦隊ノ非戰側ニ隨伴行動中ハ各其ノ母隊指揮官ノ命令若クハ訓令ヲ待チテ襲撃スルモノトス

五、水雷艇隊敵ヲ襲撃スルニ當リテハ列間ヲ通過スルヲ妨ケスト雖モ艦尾ニ接近シテ斜過スルコトヲ努ムヘシ

(七) 砲煩水雷使用ノ守則

一、敵ノ單列陣形ニ對シテハ端艦ヨリ逐次擊滅スルヲ原則トスレトモ複雑ナル陣形ニ對シテハ常ニ自艦ノ正横ニ近キ最近敵艦ニ集彈シ我カ砲火ノ威力ヲ最大ニ發揮スルニ努ムヘシ

二、發砲開始ノ時機ハ特ニ之ヲ令セサルヲ以テ各艦長ハ其ノ所信ニヨリ有效ノ砲撃ヲ開始スルモノトス

三、七千米突以外ニ於テハ砲火ヲ交ヘサルヲ例トス

四、四千五百米突以外ニ於テハ急射撃ヲ行ハサルヲ例トス

- 五、四千米突迄ニ決定射距離ヲ得テ急射撃ヲ行フヲ有利トス
- 六、會戰ノ初期ニ於テ敵艦隊ニ多少ノ打撃ヲ加ヘ其ノ續イテ來ラントスル決戰ニ於テ我カ勝利ヲ容易ナラシムルハ素ヨリ望ム所ナルモ遠距離射撃ノ爲メニ肝要ナル際時ニ於ル彈藥ヲ消盡シ終ラサルコトニ留意スヘシ
- 七、敵ノ軍艦水雷艇同時ニ顯レ齊シク兩者ノ攻撃ヲ緩ウスル能ハサル場合ハ十二母以下ノ砲煩ヲ以テ先ツ該水雷艇ヲ撃破スルヲ例トス
- 八、魚形水雷ハ隨時發射シ得ヘキ準備アルヲ要ス
- (八) 各艦ノ自由運動ヲナシ得ル場合
 - 一、各艦ヲシテ自由運動ヲ採ラシメタル場合ト雖モ努メテ友艦ト協力シテ我カ最終ノ目的ヲ達センコトヲ期スヘシ

(九) 夜間戰鬥ノ守則

- 一、水雷艇隊ヲシテ奇襲ヲ決行セシムルノ外艦隊ノ交戰ヲ行ハサルヲ例トス若シ戰鬥スルノ場合ニ於テハ一齊回頭ヲ行ハス
- 二、各艦航海燈速力燈ヲ點シ檣頭ニ[㊦]——[㊧]ニ燈ヲ連掲スヘシ
- 三、艦隊ト分離シタル水雷艇隊ハ必要止ムヲ得サルノ外味方艦隊ニ近接スヘカラス而テ止ムヲ得スシテ味方艦隊ニ近接セントスル場合ニハ必ス味方識別暗號ヲ表示スヘシ

(第一號表) 朝鮮海峽哨戒配備表

稱	號	所屬戰隊	根據地	擔任		記事
				日間位置	夜間位置	
戰	第五(宮古缺ク)		大口灣	豆酸嶺南々四十海里		
	第六(一艦缺ク)		り			
	第七ノ主力		鎮海灣	アタラレタ列島鴻島附近		
	第六ノ一艦		大口灣	豆酸嶺東方十五海里ノ點ヨリ沖ノ島ノ方へ約二十海里間		
	宮		大口灣	韓嶺ト釜山ヲ連接セル線ノ中央ヨリ北東約二十海里ノ間		
	古		大口灣			
水雷艇	第十	第七	鎮海灣		釜山韓崎間	
	第十一	第五(專屬)	大口灣			
	第十五	第五	豆酸灣		半城浦豆酸崎間	
	第十六	第七	鎮海灣		釜山韓崎間	

備考

- 一、戰隊ハ夜間各根據地ニ在リテ警戒ス
- 二、水雷艇隊ハ晝間各其ノ根據地ニ在ルヘシ但第十一艇隊ハ晝間共其ノ專屬部隊ニ隨伴行動ス

(第二號表) 輸送船隊掩護配備表

第一章 第二節 第三艦隊ノ行動及ヒ戰策

隊	稱	號	所屬戰隊	根據地	擔任		記
					晝間位置	夜間位置	
水雷艇隊	戰	第十	第五(專屬)	大口灣	豆蔵崎ノ南々西十海里		編者曰ク第十二艇隊ハ 佐世保水雷艇所屬ナル ヲ以テ同司令長官ト協 議ノ上同備ヲ定メタル モノト思考セララル
		第十一	第五	大口灣	近アトラレタ列島鴻島附		
水雷艇隊	戰	第十二	第七	鎮海灣	豆蔵崎ノ南々西十海里		編者曰ク第十二艇隊ハ 佐世保水雷艇所屬ナル ヲ以テ同司令長官ト協 議ノ上同備ヲ定メタル モノト思考セララル
		第十一	第五	三浦灣	近アトラレタ列島鴻島附		
水雷艇隊	戰	第十	第五(專屬)	大口灣	豆蔵崎ノ南々西十海里		編者曰ク第十二艇隊ハ 佐世保水雷艇所屬ナル ヲ以テ同司令長官ト協 議ノ上同備ヲ定メタル モノト思考セララル
		第十一	第五	大口灣	近アトラレタ列島鴻島附		
水雷艇隊	戰	第十二	第七	鎮海灣	豆蔵崎ノ南々西十海里		編者曰ク第十二艇隊ハ 佐世保水雷艇所屬ナル ヲ以テ同司令長官ト協 議ノ上同備ヲ定メタル モノト思考セララル
		第十一	第五	三浦灣	近アトラレタ列島鴻島附		
水雷艇隊	戰	第十	第五(專屬)	大口灣	豆蔵崎ノ南々西十海里		編者曰ク第十二艇隊ハ 佐世保水雷艇所屬ナル ヲ以テ同司令長官ト協 議ノ上同備ヲ定メタル モノト思考セララル
		第十一	第五	大口灣	近アトラレタ列島鴻島附		
水雷艇隊	戰	第十二	第七	鎮海灣	豆蔵崎ノ南々西十海里		編者曰ク第十二艇隊ハ 佐世保水雷艇所屬ナル ヲ以テ同司令長官ト協 議ノ上同備ヲ定メタル モノト思考セララル
		第十一	第五	三浦灣	近アトラレタ列島鴻島附		
水雷艇隊	戰	第十	第五(專屬)	大口灣	豆蔵崎ノ南々西十海里		編者曰ク第十二艇隊ハ 佐世保水雷艇所屬ナル ヲ以テ同司令長官ト協 議ノ上同備ヲ定メタル モノト思考セララル
		第十一	第五	大口灣	近アトラレタ列島鴻島附		
水雷艇隊	戰	第十二	第七	鎮海灣	豆蔵崎ノ南々西十海里		編者曰ク第十二艇隊ハ 佐世保水雷艇所屬ナル ヲ以テ同司令長官ト協 議ノ上同備ヲ定メタル モノト思考セララル
		第十一	第五	三浦灣	近アトラレタ列島鴻島附		

備考

- 一、戰隊ハ夜間各根據地ニ在リテ警戒ス
- 二、水雷艇隊ハ晝間各其ノ根據地ニ在ルヘシ但第十艇隊ハ晝夜間共其ノ所屬部隊ニ
隨伴行動ス

幾モナク東郷第三艦隊司令官モ、亦第六戰隊ノ第五戰隊ト協同シテ敵艦隊ニ當ルカ、若クハ單
獨戰鬪ヲ爲スヘキ場合ニ於ル戰法ヲ策定シ、之ヲ戰鬪陣形、艦隊區分、戰鬪速力、戰鬪距離戰法、
砲煩水雷ノ使用ニ關スル守則、各艦自力行動ヲ爲シ得ル場合、夜間戰鬪等ニ區分シ、之ヲ同戰隊

ニ示セリ、即チ左ノ如シ、

- 一、本戰策ハ第六戰隊カ第五戰隊ト協同シテ敵艦隊ニ當ルカ若クハ單獨敵艦隊ト戰鬪ヲナ
スヘキ戰法ノ綱領ヲ豫示スル者ナリ

二、戰鬪陣形

- (イ) 旗艦先頭ノ單縱陣ヲ基本トシ時宜ニ依リ一齊回頭ヲ以テ他ノ單列陣形ヲ制ルコト
アルヘシ
- (ロ) 逆番號單縱陣カ若クハ旗艦一時列外ニ出ル場合ニ在リテハ新先頭ノ艦長ハ戰術上
ノ所信ニ由リ當隊ヲ嚮導スヘシ

三、艦隊區分

第一小隊

△須磨

千代田

(編者曰ク須磨ハ二月四日迄第六戰隊ニ編入セラレサリシヲ以テ和泉ヲ旗艦トシ後テ明石
ノ入ルニ及ンテ之ヲ同艦ニ移シ第一小隊明石須磨和泉第二小隊千代田秋津洲トナセリ又
千代田ハ二月六日
始テ隊列ニ入レリ)

第二小隊

和泉

秋津洲

四、戰鬪速力

- (イ) 十五海里ヲ基本トシ特令ナケレハ戰鬪中常ニ之ヲ用フ敵ノ速力及ヒ彼我ノ對勢ニ
依リ尙増減スルコトアルヘシ該速力ノ増減ハ其ノ都度信號ヲ以テ之ヲ令ス
- (ロ) 微速力ヲ四海里トシ半速力ヲ戰鬪速力ト微速力トノ中間トス

五、戦闘距離

(イ) 戦闘距離ハ時ノ對勢ニ依リ始終適當ニ保持スルコト難シト雖モ爲シ得ヘクハ戦列ノ最近距離ヲ約三千米突内外トス

六、戦法

(イ) 丁字戦法ヲ基本トス

(ロ) 戦法ノ主トスル所ハ丁字形ノ正不正ニ關セス常ニ我カ全線ノ火力ヲ敵ノ列端ニ集注シ個々ニ敵ヲ撃破スルニアリ

(ハ) 第五戦隊ト協同シテ敵艦隊ニ當ルトキハ第三艦隊戦策第五項ニヨリ其ノ第一法及

ヒ第二法ノ何レカニ展開スヘシト雖モ若シ第二法ノ展開ヲナス場合ニハ或ハ十字

砲火ヲ以テ敵ヲ又撃シ或ハ其ノ列端ヲ猛撃シ主隊ト相呼應協力スルニ努メ常ニ遠

ク主隊ト隔離セス又敵ニ對シ主隊ト相重疊スルカ如キ不利ニ陥ラサルノ注意アル

ヲ要ス

七、砲煩水雷ノ使用ニ關スル守則

(イ) 發砲開始ノ時機及ヒ彈丸ノ選擇等ハ特ニ之ヲ令セス一ニ艦長ノ所信ニ委ヌ四千米突以上ノ距離ニ在リテハ急射セサルヲ例トス

(ロ) 射撃ノ目標ハ敵ノ列端ニアリト雖モ對勢ノ如何ニ依リテハ之ニ拘泥スルコトナク各艦任意ニ其ノ砲力ヲシテ最有效ニ利用シ得ル所ノ目標ヲ選フヲ要ス

(ハ) 戦闘ノ初期ニ於テ試射ノ結果敵艦ノ距離ヲ知りタルトキハ百位ヲ以テ示ス距離ヲ

計數信號ニテ前檣頂ニ掲クルコトアルヘシ

此ノ場合ニハ他艦ハ受信セサルモノトス

(ニ) 砲戰ヲ主トスルヲ以テ水雷利用ノ爲メ特ニ陣形ヲ變換シ或ハ敵ニ近接スル等ノ運

動ヲ採ルコトナキカ故ニ常ニ水雷發射ノ準備ヲ整ヘ時機ヲ逸セサルコトニ注意ス

ヘシ發射ノ時機ハ一ニ各艦長戰術上ノ所信ニ委ヌ

八、各艦自由行動ヲ爲シ得ル場合

(イ) 敵ニ中斷セラレ亂戦トナリタルトキ

(ロ) 衝突ノ危険其ノ他艦ノ安危ニ關シ已ムヲ得サルトキ

右ニ掲クル場合ノ外決シテ單獨ノ自由行動ヲ許サス

自由行動ヲ採リタル後ハ官階ノ上下及ヒ第三項ノ順序ニ關セス速ニ一縦列トナリ

可成旗艦ニ追従スルヲ努ムヘシ

九、夜間戦闘

(イ) 夜間戦闘ヲ行ハサルヲ例トス若シ行フ場合ニハ一齊回頭ノ運動ヲ行ハス

(ロ) 夜間戦闘ヲナストキハ①二燈ヲ大檣頂ニ連掲シ旗艦ハ將官燈ヲ點スルモノトス

(ハ) 航海燈速力燈及ヒ檣頭ニ掲クル②一③二燈ノ點滅ハ旗艦ニ準フヘシ

細谷第三艦隊司令官モ、亦第七艦隊ノ他隊ト協同シテ、敵艦隊ニ當ルカ、若クハ單獨戦闘ヲ爲ス場合ニ於ル戦法ヲ策定シ、之ヲ同戦隊ニ示セリ、即チ左ノ如シ、

- (一) 本戦策ハ第三艦隊戦策ニシテ我カ第七艦隊ニ關スルモノヲ敷衍シ且我カ戦隊單獨遭敵ノ場合ニ處スル艦隊戦術ノ大要ヲ策定スルモノトス
- (二) 第五第六戦隊ト共同遭敵ノ際ニ於テモ交戦ノ初期及ヒ終期トヲ間ハス必ス適當ノ敵アルヲ以テ進シテ之ヲ攻撃スヘシト雖モ第五第六戦隊ノ行動ヲ妨ケサルノミナラス敵ヲ牽制シ同戦隊ヲシテ常ニ有利ノ位置ヲ取ラシムルヲ努ムヘシ
- (三) 本戦隊單獨遭敵ノ場合ニハ不利ナル交戦ヲ避ケ敵ト觸接ヲ保チ夜ニ入ルヲ待チテ水雷艇隊ヲシテ襲撃奏效セシムルヲ主トスト雖モ可能的交戦シ大損害ヲ敵ニ與ヘントス
- (四) 共同ト單獨トヲ間ハス勢力集中兵力合同ハ戦術ノ主眼ナルモ第二小隊(編者曰ク第二小隊ハ大島愛宕島海赤)及ヒ第三小隊(編者曰ク第三小隊ハ海城ナリ)ハ遊撃隊トナリ能フヘクシハ地利ヲ應用シ敵ヲ攻撃或ハ牽制シ第一小隊(編者曰ク第一小隊ハ扶桑平遠濟遠筑紫ナリ)ノ運動ヲ妨グルコトナク其ノ行動ヲ容易ナラシムルヲ主トシ自ラ窮地ニ陥ルコトナキヲ最戒メサルヘカラス是實ニ各小隊長ノ獨斷ヲ要スル點ナリトス
- (五) 速力劣等ノ隊ニアリテハ一旦不利ノ地位ニ立テハ之ヲ恢復スルコト極テ困難ナリ故ニ退却戦ノ機宜ニ適スルコトアルヘキト有煙炭利用ノ時機アルヘキトハ各小隊長

ノ心ニ銘スヘキコト、ナス

- (六) 運送船隊掩護中遭敵動作ハ臨機發令スヘシト雖モ第一小隊ハ敵ヲ扼止シ第二第三小隊ハ船隊ヲ安全ニ目的地ニ誘導ヲカムルヲ例トス
- (七) 戦闘陣形及ヒ戦闘速力
 - (イ) 戦闘陣形
 - 第三艦隊戦策ニ準據シ時宜ニ依リ一齊回頭ヲ以テ陣形ヲ變ス
 - (ロ) 戦闘速力
 - 原速力九海里 微速力四海里
 - 舵角(扶桑)十度
- 但第二第三小隊ハ戦況ニ準シ其ノ速力ヲ加減スルコトヲ得
- (八) 战斗中ノ守則
 - (イ) 第三艦隊戦策ニ依ル
 - (ロ) 戦況ニ應シ我カ隊ヲ分離スルコトアルモ勉メテ小隊單位ヲ保持スヘシ
 - (ハ) 战斗中一時運動ヲ共ニスルコト能ハサル艦ハ直ニ列外ニ出テ再列ニ入ル時ハ殿翼ニ就キ凡テノ場合ニ於テ番號順序ニ關セス速ニ單列ヲ制ルモノトス
 - (ニ) 附屬水雷艇隊ハ第一小隊後部非戦闘側ニ隨伴シ襲撃ニ際シ分離スルコトアルモ其ノ小隊單位ヲ保持スルヲ要ス

(九) 砲煩及ヒ水雷使用ノ守則

(イ) 第三艦隊戰策ニ依ル

(ロ) 遠距離砲戰ニ於テハ急射撃ヲ行ハサルヲ例トスト雖モ非速射砲ニ在リテハ決定射

距離ヲ得ルニ最應用スヘキモノナリトス

(ハ) 水中發射管ノ外乙種水雷ハ裝填シ置カサルヲ例トスト雖モ各艦長ハ發射ノ時機到

レリト認ムルトキハ臨機裝填ヲ特令スヘシ

(十) 各艦ノ自由運動ヲ爲シ得ル場合

第三艦隊戰策ニ依リ自由運動ヲ取ラシメタル場合ト雖モ友艦ト協力シ且所屬隊ニ勉

メテ合同ヲ計ルヲ目的トスヘシ

(十一) 夜間戰鬪ノ守則

若シ夜間交戰スルニ當リテハ戰鬪開始前ノ速力ヲ用フルコトアリ臨時特令スヘ

シ

第三節 第五第六戰隊ノ竹敷回航

片岡第三艦隊司令長官ハ二月四日ノ夜、山本海軍大臣ヨリ、竹敷ニ回航スヘキノ命ヲ受クルヤ、直ニ吳方面ニ在ル壓下艦艇ニ向ヒ、左ノ命令ヲ發セリ、

上命ニ基キ明五日午前七時三十分竹敷港ニ向ケ出港ス艦隊區分航行速力等左ノ如シ

第一小隊

(一) 尸巖島

(二) 鎮遠

第二小隊

(三) 橋立

(四) 松島

(七) 宮古

第三小隊

(五) △和泉

(六) 秋津洲

宮古ハ第三小隊ノ後尾ニ位置スヘシ

原速力十二海里 微速力六海里

舵角二十度

尋テ五日、片岡司令長官ハ、先ツ東郷司令官ヲシテ、第六戰隊ヲ率非、午前七時三十分先發シ、六連島沖ニ至リテ、第五戰隊ノ來ルヲ待タシメ、八時自ラ第五戰隊ヲ率非テ出港シ、竹敷ニ向ヒシニ、(中途橋立機關ニ故障アリテ隊ヲ離ル)午後七時三十分、馬關海峽ヲ通過スルノ際、同處ニ碇泊中ノ大和ヨリ、封令第一號(山下軍司令部參謀ノ)ヲ開披スヘキ海軍大臣ノ命ヲ傳ヘラレ、爰ニ第三艦隊ハ、聯合艦隊ト共ニ、東洋ニアル露國艦隊ノ全滅ヲ圖リ、先ツ鎮海灣ヲ占領シ、朝鮮海峽ヲ警戒スヘキノ命令ヲ蒙レリ、既ニシテ同四十分、嚴島誤リテ大曾根南方ノ淺洲ニ擱坐シ、一時鎮遠代リテ、第五戰隊ヲ嚮導シ、六連島附近ニ漂泊セシカ、九時三十分、嚴島離洲シ、入隊セシヲ以テ、片岡司令長官ハ、第六戰隊ヲ合セテ、六連島沖ニ假泊セシメ、司令官、艦長ヲ會シテ、左ノ命令ヲ發セリ、

一、我カ帝國ハ露國ニ對シ斷然自由行動ヲ執ル事ニ決シ第三艦隊ハ聯合艦隊ト共ニ東洋ニ

アル露國艦隊ノ全滅ヲ圖リ先ツ鎮海灣ヲ占領シ朝鮮海峽ヲ警戒スルノ任務ヲ有ス

- 二、第七戰隊及ヒ第十六艇隊ハ直ニ鎮海灣ヲ占領スヘシ
- 三、第十及ヒ第十一艇隊ハ速ニ豫定警戒配備ニ就クヘシ
- 四、第五戰隊(宮古)及ヒ第六戰隊ハ直ニ豆酸崎附近ニ到リ豫定警戒配備ニ就カントス
- 五、宮古ハ直ニ豆酸崎ニ到リ無線電信ヲ以テ情報ヲ問合セ之ヲ本職ニ報告シ竹敷ニ急行シテ本命令ヲ細谷司令官ニ傳達シ直ニ豫定配備ニ就クヘシ
- 六、集合點ヲ豆酸崎ノ南々西五海里ト定ム
- 七、本夜航行中艦尾速力燈ノ外一切ノ燈火ヲ隠蔽シ置キ四直哨兵ヲ配スヘシ

航行序列

順列單縱陣

原速力十二海里

微速力四海里(三隊機密第一三九號)

是ト同時ニ、竹敷ニ在ル細谷司令官ニハ、先ツ無線電信ヲ以テ、第七戰隊及ヒ第十六艇隊ヲ率非、速ニ鎮海灣ヲ占領シテ、哨戒配備ニ就クヘキヲ命シ、更ニ宮古ヲシテ、豆酸崎望樓附近ニ至リ、敵情ヲ問ヒ、細谷司令官ニ、前記ノ命令書ヲ送リテ後、警戒配備ニ就カシメ、(此ノ際同望樓ヨリ開披スヘキ海軍大臣ノ命ヲ傳ヘラル)翌六日午前一時二十七分、總艦ヲ率非テ出發シ、橋立來ラハ、竹敷ニ急航スヘキ旨ヲ傳ヘンコトヲ、六連高望樓ニ託シ、十時頃豫定集合地點タル、豆酸崎ノ南々西五海里ニ達シ、始テ行先不明ナリシ露國艦隊ノ旅順港外ニ碇泊セルコト、豆酸崎、巨濟島、馬山浦間ノ電信開設ニ著手セラレタルヲ以テ、其ノ施行ニ關シテハ、第三艦隊司令長官之ヲ區處スヘキコト、戰

時編制實施セシメラレタルコト等ヲ知り、尋テ新ニ麾下ニ入り、佐世保ヨリ來會セル須磨ヲ合セテ、之ヲ第六戰隊ニ入レ、同日午後四時二十分、第五(宮古)第六戰隊ヲ率非テ、竹敷ニ入り、左ノ命令ヲ發セリ、

- 一、敵情ニ就テハ得ル所ナシ
- 二、聯合艦隊ハ黃海方面ノ敵艦隊ニ對シ作動中
- 三、第五第六戰隊及ヒ第十艇隊(二隻)ハ毎日午前七時尾崎灣ヲ發シ豫定集合點ニ到リ午後三時同地點ヲ發シテ尾崎灣ニ歸投ス
- 四、第十艇隊(二隻)ハ毎日尾崎灣ニ止リ夜間灣外警戒ニ任スヘシ
- 五、水雷艇隊夜間警戒配備ノ細則ハ各司令之ヲ定メ實施ノ方法ヲ報告スヘシ
- 六、警戒中敵ヲ發見セハ、最近望樓ヲ經テ之ヲ報告シ、其ノ動靜ヲ監視シツ、敵ヲ集合點ニ誘致スルコトニ努メ各艦艇ハ速ニ同地點ニ會同スヘシ
- 七、敵ニ觸接セハ豫テ定メタル戰策ヲ以テ戰フ
- 八、天候ノ異變ニ應スル集合點ヲ各其ノ根據地トス

艦隊區分

第一小隊

(一) 嚴島

(二) 鎮遠

第二小隊

第一章 第三節 第五第六戰隊ノ竹敷回航

(三) 橋立 (四) 松島 (八) 官古

第三小隊

(五) 和泉 (六) 須磨 (七) 秋津洲

編隊航行速力 原速力八海里 微速力四海里(三隊機密第一四五號)

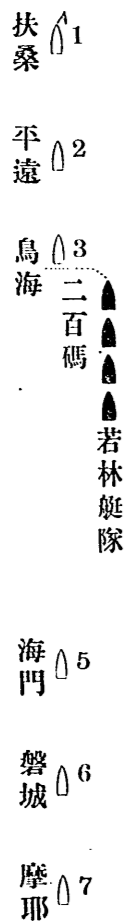
此ノ夜、細谷司令官ノ命ヲ受ケテ、蔚山偵察ニ向ヘル第七戰隊ノ濟遠ハ、途中ニ於テ、露國義勇艦隊汽船、エカテリノスラフ號ヲ、同戰隊中ノ平遠ハ、同國東清鐵道會社汽船、ムクデン號ヲ、各拿捕シテ(第三節參照)入港シタルヲ以テ、片岡司令長官ハ、濟遠及ヒ第四十二號水雷艇ヲシテ「エカテリノスラフ」號ヲ、平遠ヲシテ「ムクデン」號ヲ、各佐世保ニ護送セシメシカ、幾モナク、海軍大臣ヨリ、右拿捕船ニ關シ、交戦行爲ハ未タ實現セサルヲ以テ、「エカテリノスラフ」號ハ嫌疑ノ廉アリテ、差押ヘタルモ、其ノ事實アラサリシトノ名義ノ下ニ、速ニ解放スヘキ旨、濟遠艦長ニ訓令セリ、トノ電報到達セリ(但七日ニ至リ更ニ海軍大臣ハ竹敷要港部司令官ニ向ヒ「エカテリノスラフ」尋テ七日ニ至リ、更ニ露國商船ハ、交戦行爲ノ實現スル迄、捕獲スヘカラサル義ト心得ヘシ、トノ電報アリ、依テ同司令長官ハ、之ヲ麾下ニ傳達シ、爾後規定セル哨戒配備ニ依リ、專ラ海峽ヲ警戒シ、又第七戰隊ハ、七日ヲ以テ、鎮海灣ノ占領ヲ了レリ、既ニシテ數日ヲ經、片岡司令長官ハ、仁川及ヒ旅順口ノ戰況、竝ニ大本營ノ設置ヲ知り、益々警戒ヲ嚴ニセリ、

第四節 第七戰隊ノ鎮海灣占領

竹敷ニ在ル細谷司令官ハ、二月三日、片岡司令長官ヨリ、巨濟島方面ヲ占領スルノ計畫ヲ爲シ

置クヘシ、トノ訓令ヲ受ケ、即日第七戰隊ニ向ヒ、左ノ命令ヲ下シ、同時ニ其ノ實施ハ、特令スヘキヲ以テ、其ノ時ニ至ルマテハ、各艦長及ヒ司令ニ於テ、命令書ヲ密封保管スヘキコトヲ附令セリ、

- 一、敵情ニ就テハ情報ニ掲グル如シ
- 二、第七戰隊ノ任務ハ、鎮海灣ヲ占領シ巨濟島ニ據リ朝鮮海峽ヲ監視シ第五第六戰隊ノ來ルヲ俟ツテ同海峽哨戒ノ配備ニ就クニアリ
- 三、第一小隊及ヒ若林艇隊ハ釜山方面ヲ偵察シ濟遠ノ報告ヲ待チ異狀ナクハ漆川水道ノ豫定錨地ニ就カントス否ヲサレハ當夜ハ釜山南灣ニ假泊スルコトアルヘシ
- 四、濟遠ハ急行蔚山ヲ偵察シ露國船舶アラハ捕獲引致シ異狀ナクハ直ニ釜山ニ來リ本隊ニ合スヘシ若シ敵ニ遭フ時ハ對敵スルコトナク本隊ニ急報スヘシ
- 五、島海ハ第一小隊ト同行スヘシ
- 六、第二小隊ノ海門磐城及ヒ第三小隊ノ摩耶ハ加徳水道ニ達セハ解列シ各別ニ與フル訓令方案ノ作業ヲ完成シ終テ漆川水道ノ豫定錨地ニ就クヘシ
- 七、戰鬪速力九海里 航行原速力八海里半 微速力四海里
- 八、航行序列



第一章 第四節 第七戰隊ノ鎮海灣占領

九、出港順序

第一 濟遠

第二 扶桑平遠鳥海及ヒ若林艇隊

第三 海門磐城摩耶

十、在馬山浦ノ愛宕ハ韓國電信局ヲ占領シ露國船舶アラハ捕獲シ其ノ情況ヲ海門艦長ニ報告シ後チ馬山浦ニ在リテ本隊トノ緊急通信ノ任務ニ服スヘシ

十一、在釜山港筑紫ハ韓國電信局ヲ占領シ之ヲ我カ陸軍ニ引渡シ露國船舶アラハ捕獲シ本官ノ至ルヲ待チテ本隊ニ合スヘシ

十二、對敵ノ動作ト發砲トハ本官特ニ之ヲ命令ス是最大切ノ事ナレハナリ各艦艇ハ能ク此ノ意ヲ服膺シ個々敵ニ當ルコトナク速ニ集中ニ努ムヘシ

鎮海灣占領後日中夜間ノ警戒

十三、毎夜海門磐城摩耶ノ三艦ハ鎮海灣口ニ哨艇ヲ配備スヘシ

十四、日中ハ第一小隊ハ釜山ト韓崎間ヲ移動監視シ夕刻漆川水道錨地ニ就クヘシ

十五、夜間ハ若林艇隊ハ釜山韓崎間ヲ警戒シ翌朝釜山ヲ視察シ漆川水道錨地ニ來リ報告シ後チ休養スヘシ

第一小隊及ヒ若林艇隊ノ碇泊地ヲ竹林浦ニ變ヘタル場合

十六、夜間扶桑平遠ノ哨艇ハ蜂巖島ノ東口ニ筑紫ハ閑山水道ニ濟遠ハ飛山里水道ニ哨艇ヲ

配備ス

十七、若林艇隊ハ日中ハ閑山島ノ北東灣ニ在リテ休養シ海戰起ラハ閑山水道ヲ通過シ勉メテ急航シ第一小隊ニ合スヘシ

附令

本命令ノ實行發動時ハ特令スルヲ以テ各艦長司令ハ密封保管スヘシ

朝鮮海峽哨戒配備及ヒ第一小隊ト若林艇隊ノ哨戒交迭時ハ臨機特令ス(七戰機密第一〇號)

尋テ五日夜ニ至リ海軍大臣ヨリノ電報ニテ、細谷司令官ハ、愈々戰鬪行爲ノ開始セラレタルヲ知り、即時在竹敷第三艦隊ノ各艦長、及ヒ司令ヲ召集シ、其ノ電報ヲ示シ、同時ニ出港準備ヲ命シ、第二ノ發動令ヲ俟タス、翌六日未明ニ全部出港シ、海上ニ於テ、吳ヨリ回航シ來ルヘキ片岡司令長官ニ會合セントスルコトヲ訓令セシカ、同夜半ニ至リ、片岡司令長官ヨリ、第七戰隊及ヒ第十六艇隊ヲ率非、鎮海灣ヲ占領シ、第一表配備ニ就クヘシ、トノ命令ヲ受ケタルヲ以テ、乃チ第七戰隊ニ向ヒ、更ニ左ノ命令ヲ發セリ、

一、本日午前四時第三艦隊司令長官ヨリノ電命ニヨリ第七戰隊ト第十六艇隊ハ七戰機密第十號命令ヲ直ニ執行セントス

二、海門艦長ハ本職ノ至ルヲ待タス海門磐城摩耶ヲ率非午前六時三十分其ノ地(編者曰ク尾ヲ發シ鎮海灣ニ至リ豫定ノ事業ヲ實行スヘシ)

三、濟遠ハ整備次第直ニ出港スヘシ

四、余八午前六時三十分ヲ以テ出港セントス(七戰機密 第一三號)

是ニ於テ濟遠ハ六日午前五時ニ、扶桑、平遠、第十六艇隊ハ六時三十分ニ、各竹敷港ヲ發シ、之ト相前後シテ、海門、磐城、摩耶モ尾崎灣ヲ出港シ、豫定行動ヲ開始シ、午後零時三十分、扶桑、平遠及ヒ第十六艇隊ハ、釜山港外ニ達シテ、筑紫ヲ合セ、又蔚山方面ニ向ヒシ。濟遠ハ、中途海上ニ於テ、露國義勇艦隊汽船、エカテリノスラフ「號ヲ拿捕シテ、絶影島蔭ニ假泊シアリシヲ以テ、細谷司令官ハ、同艦ニ第七十一號水雷艇ヲ附シテ、拿捕船ヲ竹敷ニ送りシカ、恰モ其ノ際露國東清鐵道會社汽船「ムクデン」號蒼皇釜山港ニ引還セルヲ以テ、同司令官ハ、一時三十分、平遠及ヒ水雷艇白鷹ヲ派シテ、之ヲ拿捕セシメ、同艦ニ第三十九號水雷艇ヲ附シテ、同シク竹敷ニ送り、同時ニ又將校ヲ陸上ニ遣シ、韓國電信局ノ現狀ヲ調査セシメ、且我カ守備隊ニ向ヒテ、希望ヲ述ヘシメタルニ、今朝已ニ陸軍ニテハ、事實之ヲ占領セルノ状態ナリシヲ以テ、四時三十分、扶桑、筑紫、第十六艇隊ヲ率非テ、釜山港外ヲ出發シ、七時二十分、漆川水道ノ豫定錨地ニ達セシニ、海門、磐城、摩耶ハ、既ニ同方面ニ先著シアリテ、擬水雷敷設信號臺假設、航路浮標設置等、各占領ノ分擔任務ニ著手シ(第四部第一 篇防備參照)。愛宕ハ、同日午後四時、馬山浦ニ入り、同所駐在帝國領事ト協議ノ上、直ニ韓國電信局ヲ占領セリ、是ニ於テ細谷司令官ハ、同夜左ノ命令ヲ發セリ、

- 一、敵情ニ關シテハ新報ヲ得ス
- 二、聯合艦隊ハ黃海方面ノ敵艦隊ニ對シ作動中ナリ
- 三、第七戰隊及ヒ若林艇隊ノ任務ハ鎮海灣ノ占領ヲ確實ニシ豫定哨戒配備ニ就クニアリ

四、第一小隊及ヒ一水雷艇隊ハ毎日午前六時三十分第一(編者曰ク漆川水道 ナリ別冊附圖參照)或ハ第二豫定錨

地(編者曰ク竹林浦ナリ別冊附圖參照)ヲ發シ豫定集合位置ニ就カントス

豫定集合位置ヲ鴻島ノ正東約五海里トス同地點ニ達セハ附近ヲ巡航警戒シ無線電信ヲ以テ第五第六戰隊ト連絡ヲ保持シ午後六時三十分迄ニ指示豫定錨地ニ歸投セントス

- 第一 豫定錨地ニ歸投ノ時午後二時集合地發
- 第二 豫定錨地ニ歸投ノ時午後四時集合地發
- 五、若林艇隊(一隻 缺ク)ハ毎日晝間ハ指示豫定錨地ニ止リ夜間ハ釜山及ヒ韓崎間ノ豫定哨戒位置ニ就キ巡航拂曉異狀ナキヲ確認シタル後釜山ニ寄港シ偵察ヲ遂ケ異狀ナクハ指示豫定錨地ニ歸投スヘシ

- 第一 豫定錨地發 午後四時 著午前十時
- 第二 豫定錨地發 午後三時 著午前十一時
- 六、海門磐城摩耶ハ豫定ノ作業ヲ完整シ豫定錨地ニ止リテ後命ヲ待ツヘシ
- 七、愛宕ハ馬山ニ在リテ本隊間ノ通信連絡ヲ敏活ニシ本職鎮海灣ニ在ラサル時ハ海門艦長ニ急報スヘシ

八、哨戒中敵ヲ發見セハ其ノ動靜ヲ監視シツ、敵ヲ第五第六戰隊所在地ニ誘致スルコトヲ努ムヘシト雖モ愈々單獨觸接セハ戰策ニ依リ戰フ

鎮海灣内ニアル艦艇ハ敵ヲ發見シ或ハ砲聲ヲ聞カハ速ニ第一小隊ニ合同ヲ計ルヘシ